

2018 前期「福島の災害復興に学ぶ」板書

10回（5回）

3E + S

経済性、環境負荷、エネルギー安全保障、安全性

治水

新潟と原発

田中角栄 1970以後「日本列島改造論」

太平洋ベルト（東京・名古屋・大阪）

高速道路・新幹線・原発をつかって、地域を豊かに

ロッキード事件 賄賂とかの話し

・世界の大きな原発事故

1979 スリーマイル島原発事故

1986 チェルノブイリ原発事故

2011 福島第一原発事故

・立地地域としておさえておくべき場所

青森 下北半島 戦後、大陸から帰ってきた人が開拓したり

福井 嶺南（⇔嶺北） 地域開発

===

9回（4回）

06/15（開沼4）9. 福島復興に学ぶ科学と社会（2）：『はじめての福島学』6章雇用・労働、7章家族・子ども、終わりに

福島第二の廃炉

・そもそも福島第二とは？

福島第一 1960年代初頭 土地かったり、技術導入、
（例えば、GEが福島第一1号機をつくったり）

1955年に原子力基本法

（1945－50 戦後の混乱 「日本再軍備するな！」

1950— 朝鮮戦争=>冷戦構造 「米国側と一緒にうごかないか？」

核兵器の開発 核拡散 どこが核・原子力を管理するのか？

「平和のための核利用」アイゼンハワー)

福島第二 1968年「原発をあらたに2箇所福島につくるぞ！」

言ったものの、色々大変。すごい反原発運動出てくる。

浪江小高原発 結局土地うってもらえず

福島第二もそれなりの反発

3. 11のとき、福島第一は4/6爆発。福島第二は4機、一応無事。

ただし、津波で電源が途絶えたり、といった問題は第一、第二ともに。

原発の中に海水を入れると、もう使うことが困難。

第一は海水、第二は真水でこらえた。

第二は「使える」。でも廃炉になりました。

なんで廃炉になったのか？

廃炉になった要因

40年規制？ 2022年超えたら、強制的に廃炉

世論。ネガティブなイメージ、地元も外からも。政治が従う

安全規制。3・11後に厳しくなった結果、安全対策費。

原子力規制委員会とのやりとり、かなり煩雑。

東電は、1Fの廃炉、柏崎刈羽原発の再稼働が既にある。

廃炉判断が遅れた要因

2F（福島第二）が動いたら、地元雇用を相当作る

一年ちょっとに1回 定期検査数千人の雇用が発生

原発立地自治体 人口数千-1, 2万が多い。

経済波及効果は極めて大きなものだった

「廃炉にする」といったら、原子力規制委員会とのやりとり、会計上のリスク

そういう負担をまかなえる余裕が出てきたので廃炉判断した

世論のより戻しがあるのでは、と待った。「嫌なものを消せ」という（強い感情による声）

廃炉方針でた中で

メリット

世間のイメージ良くなる

原発なくて安心

デメリット

地域の産業育成 大きな会社の工場つくる（地下やすいのでは？）

現代社会＝リスクの過大評価をしてしまう社会

9. 1. 1のあと、米国で自動車利用率が高まった。その結果、事故の死傷者数が優位に増加。

ワクチン、薬害（cf インフルエンザ薬、HPVワクチンの副作用）。

背景にあるのが、情報化（cf 「陰謀論」）、科学等の高度化

じゃどうする？

「リバータリアン・パターナリズム」＝ 「行動経済学」

（自由放任主義） （父権主義）

===

7回（3回）

人口ボリューム

ベビーブーム

第1次（1945年終わって数年後）＝60代後半

第2次（その子どもたち1970年あたり）＝40代半ば

日本の観光が抱える課題と可能性

観光＝トップダウン的な、代理店経由の=>発地型観光 【課題】

着地型観光＝農家民泊、ボトムアップ的な 【可能性】

インバウンド観光（＝日本への外国人観光客）

2010-2015 2.3倍

福島への外国人観光客

2010-2015 0.6倍

老老介護

社会学者・見田宗介

25年周期説

1920年

1945年（戦争終わり、貧しさからの回復）

貧・病・争ではない

1970年（大阪万博、山田洋次「家族」、学生運動後、
環境問題（水俣病・オイルショック））

新しい「貧・病・争」

1995年（阪神淡路大震災、オウム真理教、J p o p、「承認＝問題の個人化」「安全・安心」）

2020年

社会意識論

1979年TMI（スリーマイル島原発事故）

1986年チェルノブイリ（東欧・ウクライナ、1991ソ連、ベラルーシ＝周縁（⇔中心））

1986年チェルノブイリ原発事故

2011年福島

時代の見方、地政学的な見方

「中心－周縁」理論 網野善彦など トリックスター

周縁が周縁化 近代になると、いろんなものが分業化する。周縁に固定化